

くりちゃんバス運行の見直しについて(平成23年10月改正)

1. くりちゃんバスの設置目的

地域住民の日常における移動手段の確保と、高齢者の積極的な外出機会の増加による社会参加を推進するとともに地球環境保全の面から公共交通機関の充実整備を目指して運行する。

2. 運行経緯

平成14年2月の道路運送法の改正により、地域内の身近な移動手段として巡回する支線をくりちゃんバスが、また、民営バスが地域と駅を結ぶ幹線ルートを担うなど、両者が有機的に連携を図ることで、より効率的なバス交通体系を維持するため平成15年5月から運行開始した。

尚、金勝地域においては、デマンド方式のくりちゃんタクシーを運行している。

3. 利用状況

現在、バス5路線(バス6台)と、くりちゃんタクシー(デマンド6系統)で運行している。平成22年(H21,10~H22,9)は58,600人の利用で、1便あたり平均3人の利用となっており、年々利用者が減少してきている。

今日まで、効率的な運行を図るため、栗東市バス対策地域協議会を毎年開催し、ダイヤ改正やバス停の変更、運行の見直し等を行ってきた。

4. 運行経費の現状

平成22年度(H21,10~H22,9)の経常費用は62,800千円、経常収益10,800千円となっており、経常欠損は52,000千円である。補助金4,400千円を差し引き市の負担額は47,600千円となっている。

5. バス運行の効率的な運行対策

バスの運行見直しについては、さらに効率的な運行を図るため、平成23年2月及び5月の栗東市バス対策地域協議会において、本年10月のダイヤ改正に向けて議論を重ね運行の見直し検討いただき路線統合による運行方針が承認された。

(検討概要)

高齢化社会が進む中で、交通弱者等は増加傾向にあり、交通手段としてのくりちゃんバスの位置付けは大きい。

これらを施策として維持し、当初のくりちゃんバス運行の趣旨と受益者負担を継続していくことを基本としながらも、更に効率的な運行の見直しを図ることにより、経費の削減を図っていくことが今重要と考えられる。

このことから改善案として

- ①利用者への応分の負担
- ②路線の統合による効率的な運行
- ③路線のデマンド化

が考えられるが、①は運賃で経常経費を賄うには単純計算で1回1000円程度の負担となり、結果として利用数の激減することが予測される。②は路線の統合により、経費の削減は図れるが、便数が減少することから利用者にとっては不便となり、運賃収入の減少となると予想される。③は30分前の電話予約の煩雑さ、利用時間によっては複数のタクシーが必要となる。また、路線によっては民間バス路線と競合することも考えられる。

このことから、どの改善案についても一長一短があり、現行の運行状況や市の財政状況等を踏まえると、②の路線の統合による効率的な運行方法の改善が妥当である。

上記のことから、くりちゃんバスの運行趣旨を踏まえ、極力経費を削減しバス会社の協力を得ながら、次のように改正する。

- ①大宝循環線と宅屋線の統合、葉山循環線と治田循環線の統合により、バス5路線を3路線とする。
- ②利用状況等を検証し、統合による長時間運行等を改善するため、運行ルートの一部変更する。
  - ・ 大宝循環線  
栗東駅西口～なごやかセンター行きの廃止  
↓  
草津駅・手原線に対応する
  - ・ 宅屋線  
草津駅西口から栗東駅東口を廃止  
↓  
草津駅西口行きを廃止し栗東駅西口～栗東駅東口への延伸
  - ・ 葉山循環線  
手原駅～なごやかセンター方面行きを廃止  
↓  
治田循環線のなごやかセンター方面行きと草津駅・手原線のなごやかセンター方面に対応する。
  - ・ 治田循環線  
栗東図書館、上砥山西方面行きの廃止



なごやかセンターから名神高速道路側道を通り、下戸山グリーンハイツへのコースに変更する。

栗東図書館、上砥山方面については民営バス金勝線に対応する。

③草津駅・手原線は現状のとおり

④病院や駅や利用の多い施設へ可能な限り確保を図る。